

JACR学術委員会 からの報告



田中 英夫 理事長／学術委員長

愛知県がんセンター研究所
疫学・予防部

学術委員会は、現在、専門委員の祖父江友孝先生、理事の安田誠史先生、副理事長の西野善一先生と私田中の4人で活動しています。昨年から今年にかけての活動を振り返りますと、まず、昨年6月に秋田市で行われました学術集会の、学術委員会企画シンポジウム「地域がん登録の課題と展望」を企画しました。次に、12月8日に東京都内のJA共済ビルカンファレンスホールで開催しました、JACRの20周年記念シンポジウム「地域がん登録—その必要性と求められるもの」の企画を広報委員会と共同で行いました。また、今年で3回目となりました、JACR学術奨励賞の候補者の選考を、今年度の2月に実施しました。この選考方法をご紹介しますと、応募者の主要論文のコピーと論文リストを、4人の学術委員がそれぞれ精査し、①同賞の主旨に合った論文の本数、②学術的価値、③実用的価値、④地域がん登録事業への技術的貢献度について、それぞれ点数をつけ、それらの合計点で総合評価しています。評点に客観性を持たせることで、公平で適正な選考を心がけています。

昨年JACRにとりまして大きな事項の1つとして、ニュースレター2月号でもご紹介しましたように、初代理事長であります藤本伊三郎先生の名を冠した、若手のがん記述疫学研究者を励ます、「藤本伊三郎賞」を開設したことです。学術委員は、同賞の選考も行うことになり、第1回は、伊藤ゆり氏(大阪府立成人病センター)と松坂方士氏(弘前大学)に決まりました。その他、学術集会の優秀ポスター発表者の受賞者の選考も行っています。

学術委員は、各々の研究活動としても、国際がん登録学会での発表、JACRモノグラフへの投稿、各種国際学会や学術誌を通してのがん記述疫学研究本来の発表などにより、日本のがん登録資料の有用性を内外でアピールしています。7月から国立がん研究センターの片野田耕太氏が学術委員に変わり、益々の充実を図ります。

JACR委員会報告 国際交流委員



松田 智大 事務局長

国立がん研究センター
がん対策情報センター がん統計研究部

国際交流委員会の活動は、主に諸外国のがん登録や、国際がん登録協議会、国際共同調査の情報提供となっています。例えば、国際がん登録協議会(IACR)が5年に1度実施するCI5(Cancer Incidence in Five Continents, 5大陸のがん罹患)及びロンドン大学衛生熱帯医学大学院のグループが実施するCONCORD STUDY(世界のがん患者生存率集計)へのデータ提出をアナウンスし、いくつかの県に対して、データ準備の支援を実施しました。また、IACRから届けられるニュースレターや海外のがん登録情報を日本語訳し、会員メーリングリストを利用して会員宛てに配信、情報を共有しています。以前より企画されていた海外関連書籍等の翻訳及び刊行についても着手したいと考えています。



5大陸のがん罹患のウェブサイト <http://ci5.iarc.fr/>

IACRの年次総会に参加する研究職の方々以外は、なかなか海外の事情に触れる機会がないために、国際交流委員会としては、国内の関係者と諸外国のがん登録をつなぐ橋渡しになればよいと考えています。また、情報の流れは、国外から国内だけではなく、日本のがん登録の現状や現場の声を海外に伝える方向へも積極的に広げていきたいです。

今年度は、英国のがん登録に留学経験をお持ちの松坂方士先生にご協力いただき、以前より活発に活動するつもりです。